

かほく

ワークシート

問題

- ①スペインの洞窟内にある壁画を調べていたドイツの研究チームが、新たな調査結果を発表しました。()に適切なことばを入れましょう。

「これまで()
と考えられてきた
()が、
実は()だった」

- ②壁画が描かれた年代を約6万4000年以上前と推定したのは、何を調べて分かったのですか。

(小学6年生/社会科)

出題者から

みなさんは「絵を描くこと」が好きですか。苦手な人もいると思いますが、いろいろな場面で絵を描くことを楽しむ人もたくさんいます。そもそも人間はなぜ絵を描くのでしょうか。今回の記事は、人間の進化・歴史を考える上で、大変興味をそそられるものでした。

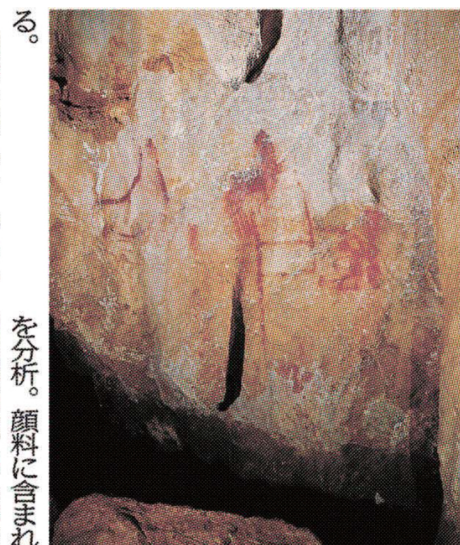
(日本新聞協会NIEアドバイザー・元小学校校長 斎藤昭雄)

旧人も絵描いた？ 6万年前 欧州の洞窟

これまで現生人類のホモ・サピエンス(新人)が描いたと考えられてきたスペインの洞窟内にある壁画が、実は旧人のネアンデルタール人の手によるものだったとの調査結果を、ドイツの研究チームが22日付の米科学誌サイエンス電子版に発表した。

約4万年前とされてきた年代を、新たな測定で6万年以上前に改めた。壁画発見後の1913年の論文では、動物やはしごのような抽象的な記号が模写されていた。記号を扱う思考は人類進化の根本的な始まりと考えられ、新人の特徴とされてきたが、旧人も高い知性を持っていた可能性があら

独研究チーム 「高い知性持つ可能性」



赤い線で描かれたスペインの洞窟壁画 (研究チーム提供)

調査したマックスプランク進化人類研究所などのチームは「抽象的な思考法の起源は、新人と旧人の共通の祖先までさかのぼる」としている。研究チームは三つの洞窟の壁に赤や黒の顔料で描かれた動物や直線、手形など

を分析。顔料に含まれる放射性物質などから年代を6万4000年以上前と推定した。欧州に新人が現れたのは4万5千〜4万年前で、壁画は2万年近く古いことになる。チームは欧州に進出していたネアンデルタール人が描いたと結論付けた。

従来の考え 揺るがす

国立科学博物館の馬場悠男・名誉研究員(人類学)の話 絵を描くなどの創造的精神は、ホモ・サピエンス(新人)だけの特徴とする考えを揺るがす研究成果だ。絶滅直前のネ

アンデルタール人が、新人と似た石器技術を独自に発達させていたらしいとの学説とも符合する。ただ、6万4000年前に新人の一部が欧州に進出していたという考え方もある。今回の研究は、別の観点からさらに補強する必要がある。